下 顎 正 中 嚢 胞 の 1 症 例

山本 雅介・谷口 幸治・土井 尚
兼松 宣武・柴田 寛一

Median mandibular cyst: Report of a case

Masasuke YAMAMOTO・Koji TANIGUCHI・Takashi Doi
Nobutake KANEMATU・Kanichi SHIBATA

I. 緒 言

下顎の正中部に発生する嚢胞は、胎生期の上皮残遺によるものと、外傷または、歯頸部の炎症などに関連して発生するもの、まれは、類表皮嚢胞、脉瘤性嚢胞がみられるといわれる。今回我々は、下顎正中部において、両中切歯根尖とX線的にも手術的にも歯牙と関連なく、下顎癒合時に残された胎生期上皮より発生したと思われる症例に遭遇したので、その概要を報告する。

II. 症 例

患者： 21才 ♀

初診：昭和46年12月 日

既往歴：昭和46年1月 日に腎臓結核の手術をしたが、現在経過良好、健康である。

主訴：下顎前歯部の異和感

現病歴：歯石除去のため来院し、X線所見にて、下顎正中部に小指頭大の透過像を認めた。なお前歯部打撲などの既往はない。

現症：体格栄養中等度で、特記すべき事項はない。

口腔内所見：3|3 歯肉頰移行部に軽度の腫脹があり、弾性硬である。また $\frac{3|3}{3|3}$ 単純性歯肉炎を起しているのはかは特記すべき事項はない。3|3 パートン電気診断器に反応した。

X線所見：下顎正中部に小指頭大の境界明瞭な透過像が認められ、1|1 の歯根尖とは直接関係が認められない（写真1）。

血液所見：異常所見は認められない。

臨床診断：正中下顎嚢胞

処置ならびに経過：2% 塩酸プロカインの局所麻酔に

て2|2の唇側歯肉を切開剥離し、約1.0cm径の骨を削除するに菲薄化した骨壁のうちに嚢胞壁を認めた。嚢胞は骨組織から容易に剥離可能であった。術後抗生物質、消炎剤を5日間投与し、経過良好で5日後抜糸を行ない現在まで異常を認めていない。

摘出物所見：直径約1.5cmのほぼ楕円形でその表面は灰白色を呈し、内容は帯黄白色で糊状を呈し、コレステリン結晶は認められなかった。

病理組織所見：重層扁平上皮と鬆粗な結合組織の二層よりなり、上皮の表層は扁平な細胞で、中間層はやや厚く円形もしくは楕円形の細胞であり、上皮の基底層はや

写真1 X線像

岐阜歯科大学口腔外科学教室第二講座（主任 柴田寛一教授）
The Second Department of Oral Surgery, Gifu College
of Dentistry. (Chief. Prof.: Kanichi Shibata.)
受付 昭和48年10月19日

写真 2 嚢胞内面は重層扁平上皮でおおわれ、上皮の基底層はやや円柱状の細胞が単層配列をなし、上皮直下は鬆粗な結合組織より成り、炎症性細胞浸潤は認められない。

や円柱状の細胞が単層配列をなしている。結合組織との境界はほとんど平坦で、炎症性細胞浸潤を認めない(写真2)。

III. 考 察

顔裂性嚢胞は顔面および口腔を形成する胎生期の諸突起の癒合部に残存した上皮から発生するもので、下顎における嚢胞は上顎のそれと比べると、発生頻度は非常に低い。Thoma¹⁾⁻³⁾は正中嚢胞は上下顎とも胎生期の癒合部に迷入した上皮から発生するものが多いと述べており、Stones⁴⁾、Austin⁵⁾は正中中部において、過剰の歯牙

がしばしば認められることにより過剰歯のエナメル器によって生じる可能性があると述べている。Robinson⁶⁾もまた多分過剰歯の原始嚢胞が下顎中切歯間に嚢胞を発生するのであると信じている。石川・秋吉⁷⁾らによれば下顎嚢胞はオトガイの正中縫合部にみられ舌側あるいは唇側に膨隆し、また前歯の歯根を遠心に圧排する(手島ら⁸⁾ 1959、深谷ら⁹⁾1962)。

本邦における下顎正中嚢胞の報告は本症例を含めて13例⁸⁾⁻¹⁷⁾であり、平均年齢は31才で、一部をのぞき比較的若年層に多く発生し、性差はほとんどないようである。嚢胞の大きさは、小指頭大から小鶏卵大までみられる。下顎前歯は手島ら4例をのぞきいずれも生活歯であり、本症例も 3|3 は生活歯あり、またX線像においても 1|1 の根尖部と透過像との間に歯槽骨の介在を認めた。

Olech¹⁸⁾は組織学的には、重層扁平上皮をなしている場合と、線毛をもたない多列様の円柱上皮を呈している場合があると述べている。本邦における報告例で上皮の被覆が認められないのはわずかに2症例で、その他はいずれも扁平上皮が認められ、本症例においても重層扁平上皮が認められた。

又、外傷の既往がみられたのは手島ら4症例であり、その他には外傷の既往は認められていない。

本症例は、オトガイ部打撲の既往はなく、1|1 は生活歯で咬合状態も正常な患者で、歯根との関連のない嚢胞が成立したもので、病理組織学的に重層扁平上皮と結合組織の二層よりなり、上皮の迷入により発生したものと

表 1 下顎正中嚢胞の報告例 (本邦)

	報告年次	報告者名	年齢	性別	嚢胞の大きさ	歯の状態	上皮の有無	外傷の有無
1	1959	手島 将雄ら	13	♂	クルミ大の膨隆	321 23 1 (+) (-)	(+)	(+)
2	1962	深谷 昌彦ら	11	♀	小鶏卵大の腫脹	321 123 (+)	(+)	(-)
3	1967	副島 公生	46	♀	4 + 5 唇側歯槽部の腫脹	2 欠如 6-41 1-7 Bridge 31 1 caries	不明	(+)
4	1969	伊藤 輝夫ら	14	♂	クルミ大の腫脹	321 123 (+)	(+)	(+)
5	1969	玉井 健三ら	14	♀	約2.5×3.5cmの鶏卵大	321 123 (+)	(-)	(-)
6	1969	虫本 浩三ら	29	♂	クルミ大の膨隆	321 123 (+)	(+)	(-)
7	1970	両川 辰雄ら	18	♀	拇指頭大の腫脹	21 21 (+)	(+)	(-)
8	1970	両川 辰雄ら	12	♂	指示頭大の腫脹	21 2 (+) 1 歯髓壊疽	(+)	(-)
9	1970	富田 陽二ら	43	♀	不明	不明	(+)	(-)
10	1971	伊藤 輝夫ら	40	♂	小指頭大の腫脹	21 12 (+)	(+)	(-)
11	1971	伊藤 輝夫ら	21	♀	1.2×1.2cmの円形	21 3 1 {+}	(+)	(+)
12	1972	山田 裕敬ら	21	♀	大豆大の腫脹	321 123 (+)	(+)	(-)
13	1973	本症例	21	♀	径1.5cmの楕円形	321 123 (+)	(+)	(-)

(+)……生活歯
(-)……失活歯

考えられる。

IV. 結 論

1) 本症例は21才女性の下顎正中部に発生した非歯源性嚢胞である。

2) 発生部位ならびに、臨床的、X線学的、組織学的所見より正中下顎嚢胞と診断した。

稿を終るにあたり御指導、御校閲を賜った磯貝助教授に深謝いたします。

文 献

- 1) Thoma, K. H. : Facial cleft and fissural cyst. Amer. Orthodont. 23 : 83-89 1937.
- 2) Thoma, K. H. : Odontogenic tumors, a classification based on observations of the epithelial, mesenchymal, and mixed varieties. Amer J Pathology, 22 : 433-471 1946.
- 3) Thoma, K. H. : Diagnosis and treatment of odontogenic and Fissural Cysts. OS OM OP. 3 : 961-986 1950.
- 4) Stones, Hubert H : Oral and dental diseases, 3rd. ed., Edinburgh and London, E & S. Livingstone, Ltd., 1954, p 821-822
- 5) Austin, L. T. : Median anterior maxillary cysts complicated by a superhumary central incisor. Amer J Orthodont Oral Surg 33 : 618-620 1947.
- 6) Robinson, Hamilton B. G. : Cysts of the oral cavity, in Archer, W. Harry : A Manual of Oral Surgery,

4th ed, Philadelphia and London, W. B. Saunders Company, 1966. p 392.

- 7) 石川悟朗, 他 : 口腔病理学Ⅱ, 849-854. 永末書店, 京都, 1973.
- 8) 手島将雄他 2 名 : きわめて稀有なる下顎正中嚢胞の 1 例について. 日口外誌 5 : 365-367 1959.
- 9) 深谷昌彦他 3 名 : 下顎正中嚢胞の 1 例, 日口外誌 18 : 266-267 1962.
- 10) 副島公生 : 下顎正中嚢胞と思われる 1 症例. 日本歯科評論 291 : 99-101 1967.
- 11) 伊藤輝夫, 他 4 名 : 下顎正中嚢胞の 1 例. 口科誌 18 : 489-491 1969.
- 12) 玉井健三, 他 4 名 : 下顎正中嚢胞の 1 例. 口科誌 18 : 151-153 1969.
- 13) 虫本浩三, 他 4 名 : Median mandibular cyst の 1 症例. 口科誌 18 : 393-396 1969.
- 14) 阿川辰雄, 他 5 名 : 下顎正中部にみられた非歯源性嚢胞と思われる 3 症例. 口科誌 19 : 653-661 1970.
- 15) 富田陽二他 3 名 : 下顎正中嚢胞と思われる 1 症例. 口科誌 20 : 669 1970.
- 16) 伊藤輝夫, 他 6 名 : 再び下顎正中嚢胞の 3 症例を経験して. 日口外誌 17 : 249-252 1971.
- 17) 山田祐敬, 他 4 名 : 下顎正中嚢胞の 1 例. 日口外誌 19 : 47-50 1973.
- 18) Eli Olech : A Clinical and histologic report of two cases. OS OM OP 10 : 69-74 1957.
- 19) Gorlin, R. J. & Goldman M. H. : Thoma's Oral Pathology, sixth ed., The C. V. Mosby Co., St. Louis, 1970, p 445.